

この学校関係者評価報告書は、麻生情報ビジネス専門学校为学校関係者評価委員会の結果を記したものである。

平成28年 7月 8日

校 長 竹 口 伸 一 郎

自己点検・評価責任者

校長代行 荒 木 俊 弘

学校関係者評価報告書

麻生情報ビジネス専門学校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況.....	- 2 -
1. 学校関係者評価の目的.....	- 2 -
2. 学校関係者評価の基本方針.....	- 2 -
3. 学校関係者評価委員名簿.....	- 2 -
4. 学校関係者評価委員会実施日時.....	- 2 -
5. 学校関係者評価方法.....	- 2 -
II. 学校関係者評価内容.....	- 3 -
基準 1 理念・目的.....	- 3 -
基準 2 教育の内容.....	- 4 -
基準 3 教育の実施体制.....	- 7 -
基準 4 教育目標の達成度と教育効果.....	- 8 -
基準 5 学生支援.....	- 10 -
基準 6 学生募集・受け入れ.....	- 12 -
基準 7 社会的活動.....	- 13 -
基準 8 管理運営.....	- 14 -
基準 9 財 務.....	- 16 -
基準10 改革・改善.....	- 17 -

平成27年度
(2015年度)

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的

- ①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生情報ビジネス専門学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2. 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

3. 学校関係者評価委員名簿

	氏名	所属
保護者	中島 みえ子	情報工学科在校生 保護者
卒業生	中園 晴久	平成6年度情報経理科 卒業生
地域の方	浦川 美代子	博多駅南1丁目1区 自治会長
高等学校	大山 明	久留米市立南筑高等学校 校長
団体	杉野 知大	社団法人福岡県情報サービス産業協会企画調査委員会 副委員長
団体	牛島 賢二	社団法人福岡県情報サービス産業協会 企画調査委員会 副委員長
団体	荒井 秀和	Training Center Japan 事務局長
団体	馬場 伸一	NPO法人九州組込みソフトウェアコンソーシアム 事務局長代理
団体	堀 浩信	福岡市経済観光文化局 国際経済コンテンツ部コンテンツ振興課 課長
団体	伊藤 寛通	公益財団法人 画像情報教育振興協会 教育事業部教育推進グループセクションチ
団体	長沢 昭彦	一般社団法人 日本経営協会 九州本部長
業界関係者	高岡 宏光	三井情報株式会社 西日本営業部 西日本営業第三室 室長
業界関係者	戸倉 彩	日本マイクロソフト株式会社 テクニカルエバンジェリスト
業界関係者	岡部 浩太郎	SCSK九州株式会社 営業部 部長
業界関係者	竹末 雅輝	株式会社システナ 福岡開発センター センター長
業界関係者	芦原 秀一	株式会社ネットワーク応用技術研究所 取締役
業界関係者	小畑 昌之	安川情報システム株式会社 ソフトウェア研究開発センター 課長

業界関係者	金丸 浩二	グローバルブレインズ株式会社 第1システム本部 部長
業界関係者	白根澤 信孝	ユニアデックス株式会社 システムサービス二部 部長
業界関係者	松尾 昌弘	株式会社システムオーディット 代表取締役社長
業界関係者	宮崎 太郎	株式会社サイバーコネクトツー 取締役副社長
業界関係者	今治 智隆	株式会社ヴァイス 代表取締役
業界関係者	須貝 克俊	九州アニメーション株式会社 代表取締役
業界関係者	矢野 修作	株式会社ディーゼロ 代表取締役
業界関係者	田上 喬	株式会社ハッピープロジェクト コンテンツ事業部 部長
業界関係者	大久保 英昭	看公税理士法人 黒岩公認会計士事務所 所長代理
業界関係者	小林 憲一	小林憲一税理士事務所 所長
業界関係者	岩永 茂敏	リコージャパン株式会社 九州事業本部 九州支社 MA事業部 公共担当室 室
業界関係者	沖田 敏治	株式会社アイスリーラボ 代表取締役
業界関係者	菊本 健司	株式会社アルファクス・フード・システム マーケティング営業戦略部 次長
業界関係者	下部 貴志	株式会社Flourish 総務部 部長

※敬称略

4. 学校関係者評価委員会実施日時

実施日時：平成28年 7月 1日（金） 15：00 ～16：30

場所：麻生情報ビジネス専門学校 6号館（キャンパスコア） 6階 キャンパスホール

5. 学校関係者評価方法

平成27年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

※参考 自己点検・評価における達成度の評定

- S：達成度が高い
 A：ほぼ達成している
 B：達成しているがやや不十分
 C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

Ⅱ．学校関係者評価内容

基準 1 理念・目的

項目総括

学校の教育理念等については設立当初より明文化し、社会に対してはホームページにて公表している。本校の理念や目的は法人の理念を基に展開しており、当該年度の事業計画書や麻生塾ルールブックに掲載し各教職員で共有している。学生に対しては、学生便覧に掲載し共有、指導するとともに、グローバルシティズンベーシック教育(GCB 教育)を通して麻生塾の卒業生としてふさわしい態度や考え方を育むようにしている。

主な課題及び改善の方向性

特になし

■学校関係者評価結果：適正

学校関係者評価 評価者のご意見

・学外 HP 等を通じて公開され、学内で共有されている様子が伺える。
 ・貴校理念である GCB 教育「他者依存から自立、相互依存へ」は大変良いと感じます。企業において求められる人材はまさにそのような人材です(自立し、周りのステークホルダーとの調整能力を持った人材)

・「グローバルシティズン」という教育目標を掛け声だけでなくカリキュラム内に取り込んでいることは、他校との差別化と言えるが、対外的にそのアピールと外部の認識が低いのではないかと思う。学校パンフレットや Web にもっと前面に出しても良いのではと考える。

(回答:広報グループと協力してパンフレットとホームページへのより良い掲載方法を検討します。)

・「より充実した資源が望まれる」については各セクションから具体的な声をヒアリングし、今後の貴校発展に向けたロードマップを作成した方が良いと思いました。

(回答:財務の中期計画と照らし合わせての充実化について検討します。)

・他者依存の思いが多いこの頃の若い人たちを、自立から相互依存(協力)まで教育をされておられる。

・「さすが麻生塾の卒業生」と言われる人材の輩出をこれからもよろしく願っています。

・理念、目的に関して、しっかりと共有できていると判断する。

・「他者依存から自立へ」との取り組み説明があったが、具体的に学生にどうアプローチしているのかが見えてこなかった。次回示していただければと思う。

(回答:学生は出来ない事に対して他者に頼りがちですが、他者に依存している学生に対しては教員が経験してきた事を基に話をしながら自立の道を探らせています。学校生活だけでなく、検定試験や作品制作を通して小さな成功体験を積み重ね自立していくことの大切さを伝えていきます。)

中項目 1-1

建学の精神、法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像は、明文化し社会に公表しているか。
 理念は学校法人から各学校、各学科等、各レベルの理念や目的に展開し、学校構成員に共有されているか。

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果： S

小項目 1-1-1

学校創設時に生まれた「建学の精神」、および根本的な考え方である「法人の理念」を明文化し、学校構成員(すべての教員、職員、学生)に周知を図り、社会に公表しているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

教職員全員に配付しているルールブックに記載し、全員へ周知している。学生には、入学時に説明を行っている。

小項目 1-1-2

「各校の教育理念」は、教育と指導を通して学生に十分に理解され、本学校の卒業生として相応しい資質として周知させている。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

学生便覧に記載し、新入生オリエンテーション等の導入教育にて新入生全員に周知している。

小項目 1-1-3

「各校の教育理念」には、職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容などを盛り込んでおり、定期的に見直しを図っているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容などは、職業実践専門課程での委員会において見直しが図られている。

小項目 1-1-4

各学科の教育目的や育成人材像は、「法人の理念」および「各校の教育理念」から導き出されたものになっているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容などは、職業実践専門課程での委員会において見直しを図っている。目的や育成人材像については毎年の事業計画において検討、見直しを行っており、事業計画自体は本部の承認が必要なことから全体との整合性が取れている。

小項目 1-1-5

各学科の教育目的、教育計画は文書化し、学校構成員に提示・共有し、社会に公表しているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

教育計画については文書化しており、年初にレビューすることで教員間で共有している。また Web サイトや印刷物等で社会に公表しており、パンフレットについては、年度毎の最新情報に更新している。

小項目 1-1-6

各学科の教育目的を実現するための人的資源、物的資源、財務資源等は適切に確保されているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

各学科共に最低限の資源は確保しているが、より充実した資源が望まれる。

=====

基準 2 教育の内容

=====

項目総括

カリキュラムについては「顧客は企業である」という考えのもと、企業のニーズ、業界のニーズを把握するために企業対応の窓口である就職担当者の企業からのヒアリング内容やインターンシップ先企業からのコメント、卒業生が就職した企業からのアンケート結果も含めて教育課程編成委員会で検討を行い、その結果をカリキュラムとして作成している。カリキュラムは定期的に見直ししており、見直す際には全教員が集まったの検討会議を行なうことにしている。またカリキュラムはホームページを通じて社会に公表している。カリキュラム完成後は科目ごとにシラバス、コマシラバスの作成を行い、教育活動としての PDCA サイクルを回している。なおシラバスについては学生にも配布している。

主な課題及び改善の方向性

・特に IT 分野については時代の動きが早く、流れに沿ったカリキュラムを作成して行く必要がある。

■学校関係者評価結果：適正

学校関係者評価 評価者のご意見

・教育課程編成委員会を通じ、業界ニーズを収集し求められる人材育成への取組みが伺える。
・企業の声を十分に聞く機会を設け、真摯に対応しているところが素晴らしいと思う。

・今年度入学生の不合格基準を 40 点から 60 点へ引き上げたことによって、本当に学力、授業の質の向上が図られるのかを、今後データを収集し、検証する必要があるのではないかと。

(回答：評価基準を変更した事による教務力及び学生の学力について、データを収集し検証を行います。)

・半年ごとに学生の教科毎の達成度、学習意欲を勘案して「クラスの入れ替え」又は「転科」という制度を検討してはと考える。

・校長代理より 5分～10分単位でのコマシラバスを作成とありましたが、学科や教科によっては現実的に記載が厳しくまた記載したところでチェック体制もとれそうにないと感じました。現実的には 1 時限ごとでの記載で十分ではないでしょうか。コマシラバスの粒度を問うよりも、教師側の「伝えた」という記録ではなく学生目線での「伝わった内容」アンケートをとる等して定期的に集積してシラバスとの差を見た方がより有益だと思います。

(回答：コマシラバスは「何がこの授業で出来るようになるか」を記載してあり、他の教員が授業を行っても同様の結果が残せるための指針としています。学生への定期的なアンケートにより、学生目線で比較・検証を行なってまいります。)

・リメディアル教育の現実の話聞いて正直かなりビックルしました。先生方のご苦労が分かりました。

・顧客のニーズをカリキュラムに反映するため、企業アンケート等の回答を回収することが必要ではないかと。

(回答：教育課程編成委員会にて、企業様からのご意見をカリキュラムに反映する運営を行っています。限られた企業様のご意見になっているため、就職グループと協力してより多くの企業から意見を伺いたいと思います。)

・教員の資質向上は努力しておられます。

・新入生の基礎学力の低下は驚きです。夢を持って麻生塾に入学された学生さんです。無事に卒業できるようお願いします。

・企業では近年、組織におけるダイバーシティ(多様性)が注目され実践されています。より多くの視点からの意見を取り入れ、カリキュラムの作成に当たられれば良いかと思います。

・全国的に学力が低下しているので、徹底的に基礎を身に付けさせて欲しい。

・大卒と比較してコミュニケーション力が低い。社会や大人との関わりを大事にさせて欲しい。

(回答：企業との連携授業やボランティア活動などを通してコミュニケーション力を伸ばしていきます。)

・よく考えられたカリキュラムになっていると思います。

・コマシラバスまで作り、きめ細かく内容を管理していることに驚きました。リメディアル教育については入学してくる学生の基礎学力の確認も含めて実施した方がよいと思いました。

・教育目標に対して、カリキュラムの作成、学習プロセスの改善、教員の資質向上へ取り組まれているものと判断する。

・業界ニーズに対応した付加価値教育に関しては、何が正しい業界ニーズなのか非常に判断が難しいため、最大公約数を導き出すためにも、今回参加した企業以外にも広く意見を求める場があっても良いと考える。

(回答：就職グループと協力してより多くの企業から意見を伺いたいと思います。)

中項目 2-1

各学科の教育目標、育成人材像に向けたカリキュラムの作成等の取り組みがされているか。

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果： **A**

小項目 2-1-1

学科の育成人材像およびカリキュラムは、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けて作成し、社会に公表しているか

■自己点検・評価結果： **S**

■コメント

カリキュラムについては、職業実践専門課程での委員会において検討し、カリキュラム会議で見直しを図っている。カリキュラムは非常勤講師には講師会で共有するとともに、ホームページで広く公表している。

小項目 2-1-2

育成人材像に向けた修業年限分のカリキュラムおよびシラバス・コマシラバスを作成しているか。また、シラバスは事前に学生に配布しているか。

■自己点検・評価結果： **A**

■コメント

カリキュラムおよびシラバスは修業年限分を文書化している。印刷物による配布など、学生に周知させる方法は、パンフレット、学生要覧、口頭説明で周知し有効・適切である。コマシラバスは各教員で作成しており、更なる充実を図っていく。

小項目 2-1-3

カリキュラムの作成に際し、複数の内部職員および業界関係者などの外部関係者を入れて、高校生の現状、社会ニーズを反映させるために、意見を取り入れているか

■自己点検・評価結果： **B**

■コメント

教育課程編成委員会およびカリキュラム会議にて、顧客ニーズを反映できる体制はあるが、広報・就職担当者についてはカリキュラム会議のメンバーとしては入っていない。

小項目 2-1-4

教科ごとのシラバスおよびコマシラバスを取りまとめて、教科間の整合性を図り、定期的に検証・見直しているか

■自己点検・評価結果： **B**

■コメント

科目毎のコマシラバスを作成し、教師間で共有している。又、各シラバスに実施状況の記録を残す事で整合性の確認を行っている。見直しについては実施状況の記録を元にカリキュラム会議で検証をしている。コマシラバスの充実が課題。

中項目 2-2

各学科の教育目的、育成人材像に向けた教授学習プロセスの改善および教員の資質の維持や向上への取り組みがされているか

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果： **A**

小項目 2-2-5

学生による授業評価を定期的に行ない、評価結果をもとに授業観察や研修等の改善活動を計画的に行ない、それらを文書で確認できるか

■自己点検・評価結果： **A**

■コメント

授業アンケートの結果に基づき、必要に応じて教員に対しての指導を行い、改善策を検討している。改善したかどうかについては、ミニアンケートを活用して早期に判断ができるようにしている。

小項目 2-2-6

学生による授業評価以外で、授業改善のための組織的取り組みを行なっているか。(授業改善委員会(FD)等)

■自己点検・評価結果： **A**

■コメント

検定取得を目指す教科を中心に、定期的に担当者間で会議を行なうことで改善に取り組んでいる。また授業見学や研修を通して改善活動がなされており、管理職にて計画を共有し、進捗管理している。今年度は事業計画にてアクションラーニング研修を行なうことで授業力向上に取り組んだ。

小項目 2-2-7

教員の専門性や指導力等の把握や評価、維持、向上のために、計画的に内部・外部の研修や自己啓発の支援を行ない、検証・評価を行なっているか

■自己点検・評価結果： A

■コメント

教員研修については全般的な分野を教育推進グループが担っており、必要な研修に参加することで能力向上を図っている。専門分野や担当分野については目標設定シートや業務遂行評価シートで状況を把握し、必要に応じて学外研修に参加することで能力向上を図っている。

中項目 2-3

各学科の教育目的、育成人材像に向けた業界ニーズに対応した付加的教育の取り組みがされているか

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果： A

小項目 2-3-8

企業・施設等での職場実習(インターンシップ含む)を行なっているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

それぞれの学科の専門性に即した企業との連携によりインターンシップを実施している。業界の特性によりインターンシップを取り入れにくい学科があるが、大学でも取り入れられている「逆インターンシップ」を行なうことで、社会で必要なスキルを理解させている。

小項目 2-3-9

キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

早期のキャリア教育として就職年次の前年に「就職実務」を取り入れることによりキャリアの発達を促している。さらに全学生に対して、シラバスに則った GCB 教育を実施している。1 年次、2 年次と段階を経た内容を行なうことにより、感謝心、志を持つ自立した社会人となることを目指している。

小項目 2-3-10

リメディアル(導入前教育、補習)教育を行なっているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

新入生に基礎学力テストや学力共通試験を実施し、学力の把握をしている。専門授業を行う際に支援が必要な場合は、補講という形でフォローしているが、担任を中心に行なっており組織的な動きにはなっていない。

基準 3 教育の実施体制

項目総括

教員の採用に関しては複数回の面接と模擬授業を実施してもらって可否を判断しており、採用後は指導担当者を配置して OJT を行なっている。教員組織としては 3 分野に分かれての運営を行っており、それぞれの分野に応じた運営を行ないつつ、各分野の情報共有を行いながら活性化させている。

学校として基本となる施設、設備については充実しており、かつ良好に管理ができています。安全確保についても十分に配慮している。

主な課題及び改善の方向性

本校は IT に特化した学科を設置しており、進歩の早い IT 業界に対応した教員の継続的なスキル向上を心掛けたい。また設備についても同様に、常に現場に対応できる設備とするように心掛ける。

■学校関係者評価結果：適正

学校関係者評価 評価者のご意見

・教育体制、環境整備はされているものの、若干の世代の古さを感じた。とはいえ、ネットワークやセキュリティのコア技術は大きく変わるものではないので、製品の使い方ではなく、IEEE や RFC などの規格を踏まえた学習を行なうことに影響をきたすほどではないと考える。

・建物の地震対策は出来ていますか。

(回答: 使用している建物は建築基準法には適合していますが、学校は「建築物の耐震改修の促進に関する法律」により耐震化の整備の努力義務がありますので長期修繕計画の中で対応していきます。)

・弊社に在席する貴校卒業生からは「学校では非常に丁寧に判りやすく教えていただいた」と聞いています。

・教育の実施体制や環境整備に関してしっかりと整備されていると感じた。

・教育環境に関しては、限られた資源の中で十分な取り組みをされているのではないかと感じる。

中項目 3-1

各学科の教育目標、育成人材像に向けた教育の実施体制は整備されているか。

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果： A

小項目 3-1-1

教育目的を達成する優秀な人材を採用するために、適切な採用基準を設けているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

常勤、非常勤講師ともに専門性の高さのみならず、履歴書や適正検査等を活用しながら教員として必要な人間性も確認するようにしている。しかし採用における要件等は用意されているが、採用基準として明文化までには至っていない。

小項目 3-1-2

学科編成・教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

本校は3分野に分かれての運営を行っており、それぞれに責任者がいることで適切に運営している。各学科共に必要な資源は確保しているが、担当科目数の見直しなど、より充実した運営を行なう方針である。

小項目 3-1-3

非常勤講師と適切な協業および情報交換を図っているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

日々の授業においては授業コマ毎の授業報告書にて情報交換をしているが 27 年度は担任による確認が不足していた。前期末、後期末の年 2 回振返りのミーティングを行っている。

中項目 3-2

各学科の教育目標、育成人材像に向けた教育環境が整備・活用されているか。

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果： A

小項目 3-2-4

図書室・図書コーナーがあり、教員や学生が利用できる関連図書等を備えているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

姉妹校も利用できる総合的な図書室として設置をしている。それぞれの専門分野についてのコーナーも設置され、教職員、学生の利用ができる状態になっている。内容が古い図書がないように心掛けたい。

小項目 3-2-5

学生が就職に関する情報を収集したり、専門職員が就職支援を行う指定された場所はあるか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

求人票や企業情報を得る事ができる場所としてキャリアサポートセンターを設置している。又、専門職員による就職指導の場として利用している。

小項目 3-2-6

学内外実習時の安全対策を文書化し、十分な対策を取っているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

学外実習時には条件を記載した文書を元に、誓約書を作成している。又、学外実習実施前に事前研修を行い安全管理を含めた対策としている。学内実習については危険が伴うような実習を行っていないことから安全管理規定を作成していない。

小項目 3-2-7

防災・防犯設備(非常灯・消火器・警備システム等)を整備・点検しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

防災・防犯設備については、保守点検を毎月実施しており、点検結果の説明を受けたうえで、報告書を適切に保管している。使用方法については、受入時や消防訓練などの機会を通じて、教職員の理解度向上に取り組んでいる。

小項目 3-2-8

空調などの学校設備、机・イス等の教育備品、実習で使用する教具などの教育設備等を定期的に管理・点検しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

教室管理委員会を中心として備品、設備の確認を行なっている。教室内の机、イス等についてはデータ化して管理している。不良箇所については定期的に点検し逐次改修をしている。

小項目 3-2-9

建物の長期改修計画を策定し、計画的に改修しているか。

■自己点検・評価結果： C (不適合)

■コメント

現在は、長期改修計画は作成されていないが、H28 年度に専門家による建物診断を実施する予定であり予算の手当ても行っている。

基準 4 教育目標の達成度と教育効果

項目総括

「質の高い教育サービスにより学生の付加価値を高め、顧客である企業の求める人材を育成し社会に貢献します」というミッションのもと、全てにおいて PDCA サイクルを常に意識しながら指導を行っている。

教育活動の成果としての成績、検定取得、退学者等の目標値については事業計画を年初に全教員にレビューしている。進捗状況については毎月、クラス運営報告書として各クラスの状況を報告し、その状況を定期的な学科会議、主任会議、検定担当で振り返っている。さらには月例会議にて学校全体で状況を共有すると共に進捗を確認し、軌道修正が必要なものについては修正を行っている。

生活指導、学習指導、就職指導の結果については学校ホームページで公表している。

卒業生の記録についてはデータベースで管理しているが、変更の都度に更新がなされていない部分もある。

主な課題及び改善の方向性

卒業後の早期退職、転職の状況を把握し、予防策として教育内容に盛り込んでいきたい。

■学校関係者評価結果：適正

学校関係者評価 評価者のご意見

・「他者依存から自立へ」という視点から、「勤労観・職業観」を身に付けさせる手立て、方策が大切だと思う。
(回答：GCB 教育と就職実務を連動させて勤労観、職業観の育成に努めます。)

・1 年後の卒業生の状況把握のためにも、専門部署の立ち上げを行い企業からのフィードバックを次年度から活かせる仕組みづくりが必須だと感じました。
(回答：就職グループと協力して、情報収集と卒業生のフォローを行ないたいと思います。)

学生の付加価値を高め、企業の求める人材を育成される先生方の努力を評価します。

・就職 1 年～3 年まで、卒業後の見守り支援もお願いしたいです。

・達成度と教育効果の開示および「見える化」を進め、全職員が現状の状況を把握できる環境にあることは、大変良いことだと感じます。

・全ての卒業生ではないものの、就職先へのフォローなども行なわれている。

・教育上の人材像と業界が求める人材像には多少なりともギャップがあるかと考えるが、毎年改善を実施していることに関しては評価できる。

中項目 4-1

各学科の教育目的、育成人材像に向けて、その達成への取り組みと評価がされているか

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果： **A**

小項目 4-1-1

教科の評価・成績に関して目標を設定し共有しているか。また結果について記録し、検証・報告したか

■自己点検・評価結果： **A**

■コメント

目標数値は事業計画書に記載することで全教員が共通認識している。目標数値に対しての結果、状況は毎月のモニタリングシートで確認されており、当該シートを基に各分野、学科に落とし込んで対策立案や振り返りを行なっている。

小項目 4-1-2

学科目標の国家試験および公務員試験の合格率・合格者数等の目標を設定・共有し、結果を検証し改善等しているか。

■自己点検・評価結果： **A**

■コメント

国家試験の目標値については事業計画書に記載されており、全教員が認識している。状況や結果については教科の担当者会議で共有を行っており、その中で見直し、対策立案を行っている。合格実績については検定結果報告書で上位者に提出し、必要に応じて担当者に指示を行なうとともにカリキュラムに反映させている。27 年度は学年ごとの目標数値を決めて検定対策を行った。

小項目 4-1-3

資格・検定・コンペに関して目標を設定・共有し、結果について検証・報告・公表したか。

■自己点検・評価結果： **S**

■コメント

検定試験やコンテストの目標値については事業計画書に記載しており、全教員が認識している。状況や結果については教科の担当者会議で共有を行っており、その中で見直し、対策立案を行っている。合格実績については検定結果報告書で上位者に提出し、必要に応じて担当者に指示を行なっている。さらに結果を振り返り、カリキュラムに反映させている。

小項目 4-1-4

学生の就職に関して目標を設定し共有しているか。また就職活動を記録して、それをもとに結果の検証・報告・公表したか

■自己点検・評価結果： **S**

■コメント

目標数値については事業計画書に記載し全教員が共通認識している。進捗状況については、毎月曜日に状況確認を行い、さらに学科ごとの月例会議にて受験状況の確認を行っている。学生個々の活動状況は逐次更新を行い、教職員で共有できる状態にしている。27 年度はビジネス系の進捗が芳しくなかったことから、プロジェクトを組んでの指導を行い前年以上の成果を残すことができた。効果的な取り組みや参考事例については、年に 2 度行なわれた就職研修で共有し、質の向上に努めた。

小項目 4-1-5

卒業率のアップに関して目標を設定・共有し、退学を防止する活動に関して検証し、退学者数を公表しているか。

■自己点検・評価結果： **A**

■コメント

目標数値は事業計画書に記載し全教員が認識している。学生の生活状況については学科ごとでの月例会議にて確認を行っている。学生対応の記録としてガイダンス記録表を作成し、教職員間で状況の共有を行っている。退学者数については、学科毎に Web サイトにて公開している。27 年度は毎日の出席状況を全体で共有する取り組みを行い、退学の予防に努めた。

小項目 4-1-6

卒業生(同窓生)の進路・就職先等を記録し、公表しているか。

■自己点検・評価結果： **S**

■コメント

進路、就職先については進路決定届出書に基づき麻生塾システムでの管理をしており、パンフレット等で公開している。尚、個人情報の管理については、十分留意している。

小項目 4-1-7

卒業生(同窓生)の 1 年後の就業状況を把握しているか。

■自己点検・評価結果： **A**

■コメント

卒業後 3 年目の卒業生に対して、顧客満足度調査アンケートを実施している。卒業後 1 年目～3 年目の卒業生に対して、在籍調査を実施している。上記 2 件の調査結果については、教師就職研修で報告している

=====

基準 5 学生支援

=====

項目総括

本校には教務をサポートする業務推進本部、経営推進室という組織があり、教育推進グループ、広報グループ、就職グループ、学生支援グループ、国際交流センターが入学前から卒業後までを横断的に支援している。また指導内容を含む学校情報は主に広報グループがホームページを通じて公表している。

基準 4 の学生指導の中には学生や保護者との面談も含まれており、カウンセラーとの連動など必要に応じた対応をとるよう担任や上位者が指導している。指導時には面談記録の提出が義務付けられており、学校全体で共有できている。

留学生や社会人、障がい者も受け入れており、即戦力となるように指導している。

主な課題及び改善の方向性

精神面での病気を抱えた学生や学習障害などの学生が増加する傾向が見られ、教員の対応力を強化して行く必要がある。

■学校関係者評価結果：適正

学校関係者評価 評価者のご意見

・経済的支援の充実が大事で、独自の奨学金制度等、広く広報していく必要があると思う。

(回答：広報グループと協力して、パンフレット募集要項、ホームページでのより良いアピール方法を検討します。)

・専門のカウンセラーが居て、学生を充分支えておられる。

・市社会福祉協議会に教育支援がありますが、麻生塾に授業料免除制度、奨学金制度があることはありがたいことです。

・卒業生に向けての再就職斡旋、キャリアアップ支援は充実させてください。

(回答：校友会と協力して、卒業生に対する支援を強化していきたいと思います。)

・各項目とも適正な運用が伺える。

・想像を超えるレベルで学生を大切に支援していると感じている。

=====

中項目 5-1

各学科の教育目的、育成人材像に向けて、学生支援が整備され組織的に行われているか(在学時)

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果：**S**

小項目 5-1-1

担任による学生の面談を定期的に行ない、面談内容を記録しているか。

■自己点検・評価結果：**A**

■コメント

新入生の入学式後に行う面談の他、ガイダンス実施マニュアルに則って学生の状況に応じた面談を実施し、面談内容をガイダンス記録表に残している。定期的な面談時期の設定について次年度で実施する。

小項目 5-1-2

キャリアサポート関連の有資格者(キャリアカウンセラー・キャリアコンサルタント・産業カウンセラー等)がいて、学生の就職指導を行なっているか。

■自己点検・評価結果：**S**

■コメント

有資格者による適切な進路相談指導を行なっている。有資格者は福岡キャンパス・北九州校・ABC校に在籍しており対応できている。自動車校・ARC校は巡回できる状況。

小項目 5-1-3

担任以外にスクールカウンセラーに相談できる体制が整っているか。

■自己点検・評価結果：**S**

■コメント

スクールカウンセラーが週1日来校し、希望する学生の面談を行っている。カウンセラーへの相談方法は学生便覧に掲載している。

小項目 5-1-4

学内に、ハラスメントに関する相談窓口があり、有効に機能しているか。

■自己点検・評価結果：**S**

■コメント

学生便覧にハラスメントに関する内容を記載しており学生に周知している。ハラスメント委員が研修に参加している。

小項目 5-1-5

保護者と計画的な相談会・面談を行っており、説明責任を果たしているか。

■自己点検・評価結果：**S**

■コメント

計画的に相談会・面談を実施している。三者面談の内容を面談記録又はガイダンス記録に残している。年間計画(ターム表)をたて、実施している。

小項目 5-1-6

奨学金制度等の経済的支援があるか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

経済的理由による修学支援として授業料免除制度を整備している。日本学生支援機構の奨学金手続きを中心に、都道府県、市町村、各種団体等の奨学金について学生への案内、手続き支援をおこなっている。

小項目 5-1-7

留学生、社会人学生、障がい者等を受け入れて、支援を行なっているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

日々の生活指導、教科指導については担任を中心にサブリーダー、リーダー、副主任、主任にて対応しており、必要に応じて支援を行なっている。留学生の支援については国際交流センターを設置している。社会人、障がい者の就職については就職グループと共に支援をしている。最近ではメンタル面で支援を必要とする学生や学習障害等による支援を必要とする学生が増えており、教員のスキル向上を図る必要がある。

小項目 5-1-8

直営の学生寮等、学生の生活支援を行なっているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

男女共に直営寮および留学生専用の学生寮を完備している。寮則を遵守し運営をおこなっており、担当者および各学校責任者による定期的な巡回で、寮監および寮生より状況把握のための聞き取りをおこなっている。寮生に対してのアンケートを実施し、満足度向上に繋がる改善をおこなっている。

小項目 5-1-9

課外活動に対する支援を行なっているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

課外活動にかかわる規定が文書化・公開されており、規定は学生に周知されている。

中項目 5-2

各学科の教育目的、育成人材像に向けて、学生支援が整備され組織的に行われているか(卒業後)

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果： A

小項目 5-2-10

卒業生の会(同窓会等)があり学校情報の提供や卒業生同士の交流がなされているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

校友会に関する情報について、Web サイト及び Facebook から定期的に情報を発信している。定期的に校友会総会を行い、交流の場を設けている。27 年度は東京での校友会を行なった。

小項目 5-2-11

卒業生に対して職業紹介や講習・研修を行なう体制があり周知され、効果を上げているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

希望する卒業生に職業紹介は行なっており効果が出ている。校友会でキャリアアップの支援を行っているが、十分ではない。

小項目 5-2-12

卒業生の就業先へ定期的な訪問をして就業状況を把握しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

担当者が訪問し、就業状況についてヒアリングをしている。卒業生の就職先に対し、就業 1 年後にアンケートを実施している。個人情報に関して、印刷物等で紹介する時は本人確認を実施している。過年度の調査記録はデータで保管している。

中項目 5-3

学校情報を適切に提供しているか

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果： S

小項目 5-3-13

学校情報を卒業生に Web サイト等を通じて知らせているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

麻生塾・校友会の Web サイトより、校友会総会・キャリアアップ講座の実施、学校生活・学校行事・各学科のイベント等キャンパスブログで情報で発信している。

小項目 5-3-14

学校情報を保護者に Web サイト等を通じて知らせているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

本校 Web サイトより、学校生活・学校行事・各学科のイベント等キャンパスブログで情報を発信している。27 年度は漫画・アニメ科で保護者向けの学級通信を作成し送付した。

小項目 5-3-15

学校情報を高等学校等に Web サイト等を通じて知らせているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

本校 Web サイトより、資格検定取得・内定状況をキャンパスブログで情報発信している。また検定取得時、就職内定時には高校に向けて学生個人のメッセージを出身高校に持参している。

小項目 5-3-16

学校情報を企業等に Web サイト等を通じて知らせているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

麻生塾・本校の Web サイトや就職グループで作成する企業向けパンフレットにより学校情報を発信している。

基準 6 学生募集・受け入れ

項目総括

学生募集については広報グループ、学生支援グループを中心に教務や就職グループも加わり、募集内容の検討、見直しや選考を行っており、問題はない。

主な課題及び改善の方向性

大学が行なっているリメディアル教育について検討を進める。

■学校関係者評価結果：適正

学校関係者評価 評価者のご意見

・漠然とした疑問なのですが、収益をあげるためには入学者数をある程度取らなければならない中、現実解として入学者数減の状況下の中で、入学時の基準をあまくすることで質の劣化につながるといったことはあたりませんか。（回答：入学時の選考基準を下げて入学者を増加させる対応はしておりませんが、多くの大学と同様に学生自体の学力が低下していることが問題と考えています。リメディアル教育やグループ学習の活用で対応・対策を行っています。）
・時代背景にあわせた適正な運用がなされていることが伺える。

中項目 6-1

学生募集活動は適正に行ない、入学選考は公正かつ適切に実施しているか

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果： S

小項目 6-1-1

学生の受け入れ方針(アドミッションポリシー)を明示して、入学希望者に求める資質、意欲、適性等を明示しているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

募集要項及び麻生塾 Web サイトに、アドミッションポリシーを明示している。

小項目 6-1-2

学校案内等には育成人材像、目指す国家資格・就職先、修得できる知識及び技術等が明示されているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

パンフレット及び麻生塾 Web サイトに、学科毎の育成人材像、目指す国家資格・就職先、修得できる知識及び技術等を明示している。

小項目 6-1-3

学校案内等には学費・教材費等がわかりやすく明示され、金額は妥当なものになっているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

募集要項及び麻生塾 Web サイトに、学費・教材費等を明示している。学費については経営推進室と協議を行い妥当性のある金額にしている。教材費等については、各学科のカリキュラムに合致した教材等を教務で協議し妥当性、透明性のある金額にしている。

小項目 6-1-4

学校案内に入学者の選抜方法が明示されて、入学者選考を公正かつ適切に実施し、定期的に検証を行なっているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

募集要項及び麻生塾 Web サイトに、入学者の選抜方法を明示している。入学者選考は、入試実施マニュアルに沿って公正かつ適切に実施されている。実施方法・選考基準については募集要項作成時に経営推進室と検証している。

小項目 6-1-5

学生募集活動において、就職実績、国家試験結果、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

パンフレット及び麻生塾 Web サイトに、就職実績、国家試験結果、卒業生の活躍等の教育成果を実績に基づいた数値で明示している。

小項目 6-1-6

適切な募集定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

募集定員に則って適切に入学者を受け入れ、在籍学生数をMM資料(在籍学生数)にて管理している。募集定員については、教育内容、教育環境、業界の人材ニーズ等に対応した学科定員を毎年検討し、関係法令・施設の収容状況に応じた管理・運営をしている。

基準 7 社会的活動

項目総括

企業、地域、行政等と連携をとりながら社会的活動に力を入れている。この数年は地域貢献を目的とした企業とのコラボレーションも行われており、教育活動に役立てている。また、毎年 3 月に実施している「お仕事スタジアム」は高校生のみならず、大学生や中学生の参加もあり、地域貢献活動の一環となっている。

主な課題及び改善の方向性

地域貢献を目的とした講座の検討を行なう。

■学校関係者評価結果：適正

学校関係者評価 評価者のご意見

・一般の方、小学生、主婦などへのプログラミング普及ができるこれから教育に役立つのではないかと。
・小学生～中学生への定期的なプログラミング指導を行うことで、長期的な見込み客の開拓を行ってみようというのはいかがでしょうか。社会貢献性とリードの獲得という意味で2度旨味があると考えます。

・近隣小学校、中学校へセミナー実施の計画は、小学校でのプログラミング教育必修化が検討されるような時代背景の中、有効な取り組みとして期待できるので、推進していただきたい。

・無料のセミナーの開催の検討をしてはどうでしょうか。各私立大学では無料または数千円程度の費用で開催しています。技術的な内容で市民(エンジニアではなく)への教養講座などはいかがでしょうか。

(回答：近隣の小中学校のニーズ調査から始めたいと思います。)

・貴校の周辺の企業(特に中小)の中で、IT化されていない企業があると思いますので、社会活動(地域への貢献)と卒業研究を絡ませてはどうか

(回答：就職グループと協力して地場企業のニーズ調査から始めたいと思います。)

・地域住民への学園祭の開放、地域住民を対象とした公開講座等を期待します。

・音羽公園(秋の落ち葉時)清掃にご協力ありがとうございます。東住吉校区の献血へのご協力をよろしくお願いいたします。

中項目 7-1

計画的・組織的に社会活動への取り組みが推進されているか

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果： B

小項目 7-1-1

目標・計画に基づく社会的活動(地域活動、地域貢献、ボランティア活動等)を推進し実施しているか。(制度上の問題がなければ単位認定)

■自己点検・評価結果: B

■コメント

事業計画に沿った内容でボランティア活動を推進しており、推進役として校務分掌にてボランティア委員会を設置している。毎月月初に行われる地域清掃に参加をしている。

小項目 7-1-2

地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体等へ加盟して、定期的な会合に参加しているか。

■自己点検・評価結果: S

■コメント

福岡県情報サービス産業協会、GFF(ゲーム)、福岡商工会議所、福岡販売士協会等へ加盟している。定期的に行われる会合については、可能な限り参加し職業実践専門課程を含む学校運営に生かしている。

小項目 7-1-3

地域貢献を目的とした無料公開講座などを実施しているか。

■自己点検・評価結果: C (不適合)

■コメント

地域住民を対象にした公開講座を実施していない。近隣の小学校・中学校に職種理解セミナー等の実施に向けた提案を検討している。

小項目 7-1-4

企業・地域・行政等の組織と連携を図り、地域社会に貢献しているか。

■自己点検・評価結果: A

■コメント

職業実践専門課程の学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会において企業や地域との連携を実施している。連携先は随時、見直すことにしている。27年度はWebクリエイタ科において、太宰府市や西鉄、明和地所との産学連携プロジェクトを実施し、地域に貢献した。また毎年3月にお仕事スタジアムを開催し、職業紹介の講座を実施し、地域貢献の一助とした。

基準 8 管理運営

項目総括

学校の管理、運営体制については経営推進室が中心となって検討、実施されており、規定等の文書化も適切に行なわれている。非常時の対応については教員向けの訓練を行なっている。

主な課題及び改善の方向性

非常時の対応について随時見直しを行なう。

■学校関係者評価結果: 適正

学校関係者評価 評価者のご意見

・避難訓練の取り組みは素晴らしい。

・大変だとは思いますが、もしものために全体避難のルートや場所の確保は絶対的にしておいた方がいいと思います。

・学生の人数が多いことから避難する場所も分散が必要だと思います。公園だけでなく小中学校とも連携すべきだと思います。

・災害、事件時の避難場所確保は非常に困難であるとする。近隣の消防署、博多警察署との連携などが必要か。

(回答:学校や行政機関と連携しての対策を検討します。)

・情報管理としてアカウント管理の徹底が重要だと思います。特に学校は毎年学生が入れ替わるため、アカウント管理が煩雑になりがちですが、適切な運用がセキュリティ事故(情報漏えい)を防ぐ最善の方法だと思います。

(回答:ICTグループと協力して、アカウント管理の方法を検討します。)

中項目 8-1

学校の管理・運営体制が確立して、規定通りに運営しているか

■学校関係者評価結果: 適合

■自己点検・評価結果: A

小項目 8-1-1

運営会議(MM 会議、共有会議、教務会議・部門会議等)は定期的開催しているか。

■自己点検・評価結果: S

■コメント

MM 会議、共有会議、教務会議・部門会議が定期的に行っており、担当者が参加している。27年度からは部門会議を定期的開催した。また部門を越えての情報共有を目的として、毎週1回の打合せを教務、就職、広報で行なった。

小項目 8-1-2

組織の構成員のそれぞれの職務分掌は文書化し、教職員に周知し、適切に運用しているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

年度初めに行事担当、検定担当、授業担当などを作成し、教員に周知している。職務に必要なスキル向上については別途、人材育成の中で行なっている。

小項目 8-1-3

決裁規程は文書化し、教職員に周知し、適切に運用しているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

稟議規程は文書化しており、学内ポータルサイトで全職員に対して公開している。内容について、最新化されていない箇所があるため、内容を最新化の上、改訂する予定である。

小項目 8-1-4

人事規程は文書化し、教職員に周知し、適切に運用しているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

就業規則等について冊子化は各部署にて閲覧可能な状況にしている。最新版の常備が課題。

小項目 8-1-5

人事考課制度は文書化し、教職員に周知し、適切に運用しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

人事評価制度は文書化しており教職員が閲覧できる。

小項目 8-1-6

昇進・昇格制度は文書化し、教職員に周知し、適切に運用しているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

昇進昇格制度は文書化している。管理職向けには開示及び説明したが全教職員に開示まではいっていない。

小項目 8-1-7

賃金制度は文書化し、教職員に周知し、適切に運用しているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

給与規定について冊子化は各部署にて閲覧可能な状況にしている。最新版の常備が課題。

小項目 8-1-8

採用制度は文書化し、適切に運用しているか。

■自己点検・評価結果： C（不適合）

■コメント

一定の採用のルールはあるが、採用制度は文書化までいたっていない。

小項目 8-1-9

防災・防犯対策、非常時対策を文書化し組織化して、それに基づく訓練を定期的実施しているか

■自己点検・評価結果： B

■コメント

教職員向けの避難訓練を定期的実施しており、マニュアルもその都度配布している。教職員向け防災マニュアルと学生向け避難訓練マニュアルは年度初めに更新している。学生向けの避難訓練は実施しておらず、次年度の課題。

小項目 8-1-10

個人情報保護規程は文書化し、教職員に周知し、適切に運用しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

個人情報保護の対象となる文書の一覧とその取扱いについて全教職員に配布し、処理を適切に実施している。27 年度は教職員の USB の取り扱いを制限して情報流出対策とした。

小項目 8-1-11

ハラスメントに関する規程は文書化し、教職員に周知し、適切に運用しているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

ハラスメント委員により、ハラスメントに関する文書は全教職員に配布し、全教職員が意識して行動している。

小項目 8-1-12

SD(スタッフディベロップメント)に関する計画がありそれに基づき実施しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

職員は年度初めに目標設定を行ない、教育推進グループが計画する学内研修に参加するほか、学外研修に参加するなど継続的に資質向上を図っている。研修参加時には研修報告書を提出するようになっている。

=====

基準 9 財 務

=====

項目総括

財務面については経営推進室、経理グループ、人事総務グループが主になって管理しており、適切に運営されている。

主な課題及び改善の方向性

特になし。

■学校関係者評価結果：適正

学校関係者評価 評価者のご意見

・特段のコメント無し

中項目 9-1

財務体質が健全であり財務運営が適切に行なわれているか

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果： **A**

小項目 9-1-1

年度予算および中期計画を策定しているか。

■自己点検・評価結果： **S**

■コメント

年度予算に従って管理運営が厳格に行なわれている。

小項目 9-1-2

予算は計画に従って妥当に執行し定期的に確認しているか。

■自己点検・評価結果： **S**

■コメント

毎月部門長によって予算管理が行なわれている。

小項目 9-1-3

会計監査(内部・外部)体制のルールを明確化にし、結果報告は文書等にて明確化しているか。

■自己点検・評価結果： **B**

■コメント

監査ルールは明文化していないが、外部監査については公認会計士の指導に基づき適正に行なっている。内部監査については、定期的に各校を訪問している。

小項目 9-1-4

私立学校法における財務情報公開の体制を整備し公開しているか。

■自己点検・評価結果： **A**

■コメント

常任理事会などで決定された「学校としての方針」に合わせて必要な事項を開示している。

小項目 9-1-5

固定資産管理規程を文書化し、固定資産を適切に管理・運用しているか。

■自己点検・評価結果： **S**

■コメント

固定資産管理規程を作成しており、適切に管理されている。

小項目 9-1-6

図書管理規程(本部および養成施設等)を文書化し、適切に管理・運用しているか。

■自己点検・評価結果： **A**

■コメント

図書管理規程を文書化しており、総合図書館において、学校図書を管理、運営している。固定資産に計上されている図書の把握が課題。

=====

基準10 改革・改善

=====

項目総括

自己点検については評価委員会を中心として活動しており、自己点検の結果については内部監査にて検証し、改善や見直しを行なっている。

主な課題及び改善の方向性

評価委員会にとどまらず、教務室全体で改善に取り組んで行く。

■学校関係者評価結果：適正

学校関係者評価 評価者のご意見

・全教職員による点検・評価に対する改善を期待します

・自己点検ではどうしても監査が甘くなるため、外部監査が望ましいのですが、諸般の事情もあり困難な場合もあると理解します。評価委員会に外部有識者を加える等の工夫があれば良いと思います。
 (回答:今後の評価について、第三者委員会等の外部評価を検討しています。現状は内部監査の結果を学校関係者評価委員会にてレビューし、評価していただく事になっています。)

・情報産業マーケットは、常時要求が変化するため、社会人であっても需要がなくなるケースが多発している。そのため、実態を感じてもらうためにも、インターンシップ制度をより活用した方がよいと思われる。
 (回答:現在は採用直結型のインターンシップは禁じられていますが、今後は見直しの機運もあり、今までインターンシップを行っていなかった産業・職種での実施が期待できるため、インターンシップ制度をより活用していきたいと思います。また体験型インターンシップも同様に参加者を増やしていく方向です。)

=====

中項目 10-1

各学科の教育目的、育成人材像に向けて、自己点検・評価活動の実施体制が確立して、改革・改善のためのシステム構築がされているか

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果：**B**

=====

小項目 10-1-1

自己点検・評価を適正に実施運用するためのルールを文書化し、実施および改善のための組織化し活動しているか。

■自己点検・評価結果：**B**

■コメント

全教職員による自己点検と自己点検・評価委員会による評価・改善を行っている。今後は自己点検の質を高めていく必要がある。

小項目 10-1-2

自己点検・評価の必要性を全教職員に伝え、評価結果を全教職員で共有する機会を設けたか。

■自己点検・評価結果：**B**

■コメント

定期的には全教職員による点検・評価が行なわれていない。今年度は年度末に1回全教職員による評価・点検を行なった。次年度は全教職員が評価ポイントを十分に把握した上で評価・点検、改善を実施する。

小項目 10-1-3

自己点検・評価の結果に基づき期限を定めて改善計画に基づいた結果の検証をしているか。

■自己点検・評価結果：**B**

■コメント

内部監査による改善活動を行なっており、計画書に基づき検証を行なっている。

小項目 10-1-4

自己点検・評価報告書を文書化し、学校の Web サイトに公開しているか。

■自己点検・評価結果：**S**

■コメント

下記のサイトで「自己点検・評価報告書」を公開している
http://www.asojuku.ac.jp/wp-content/uploads/2015/10/jikoten_abcc.pdf